

【福祉用具貸与サービスで実施している消毒・保管等業務の内容:作業の内容】

プロセス	作業工程	具体的な作業内容を記入してください 作業工程について、番号、箇がどのように行うかを記入してください。その工程を行うために必要な資材、道具、設備などをあげ、併せて記入してください。	作業の手順の主要要素を記入してください (又は同じく作業の順序) この作業工程と一緒に何が行われるか、何になる作業工程も記入してください	作業の所要時間を記入してください	備考
洗浄工程	軽度な汚れ(埃など)の除去	<ul style="list-style-type: none"> ●アルカリ水での清拭作業を基本とする。埃の激しいものはエアークンを用い、清拭の下準備として表面及び内部、隙間等の汚れを除去する。屋外で使用する商品については、泥の付着も多く清拭前の除去が必要なケースも多い。 ●マットレス等は専用工場で丸洗いをを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●汚れ具合、商品種目、商品の特性によって手間は全て異なる。埃であっても蚊取り線香を使用していたなど容易に除去できない場合には手間を要する。 	5~45分	
	強い汚れ(シミ、錆等)の除去	<ul style="list-style-type: none"> ●汚品置き場にてエアークンで埃を落とし、アルカリ水を直接噴霧し(もしくはウエスに染み込ませ)スポンジやウエスにて清拭を行う。サビのある場合ワイヤーブラシを使用しサビを落とす。 ●サビ取り剤は臭いが強く商品に臭いが残る可能性がある為、出来るだけ使用しないように心掛け、もし使用した場合は臭いが残っていないか確認をする。マットレス等は丸洗いをを行う。シミやサビ・異臭が取れない場合は部品交換を行うか廃棄処分とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●汚れ具合、商品種目、商品の特性によって手間は全て異なる。ガムテープやシール等が貼ってある場合や粘着物の跡がある場合は多くの手間を要する。目視確認によって強い汚れが発見されなければ特別な処置は行わない。 	●10~180分	
	流水洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ●洗濯機で洗濯できる繊維系の商品・部品は、洗濯機でアルカリ水を用い洗浄する。 ●アルカリ水にて流水洗浄を行う。マットレス等は専用工場で丸洗いをを行う。通常流水洗浄を行っているが、駆動部や電子部品があるような商品は流水洗浄ができない。 ●車椅子・スロープなど、ウォーターガンを使用 ●自動洗濯機によるキャスター、タイヤの洗浄 	<ul style="list-style-type: none"> ●洗浄前に汚れが確認されているものは、下洗い、つけおき等の準備に手間を要する。 ●電子部品等、水を掛けられない物、水抜きが難しい商品以外は実施する。 	10~45分	
	清拭洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ●アルカリ水を直接噴霧し(もしくはウエスに染み込ませ)スポンジやウエスにて清拭を行う。 ●併せて各部動作確認、機能チェックを行なう 	<ul style="list-style-type: none"> ●商品種目、商品の種類によって手間が異なる。屋外での使用商品は屋内での使用商品は相対的に汚れがひどい傾向にあり手間を要する。商品または、パーツの大きさ重量によって洗浄手間が異なる。細かな部分、狭いスペースが多い商品は清拭に手間がかかる。 	車椅子等20分~30分 ベッド等1時間~1時間30分	
消毒工程	消毒方法(酸性水消毒、オゾン・イオン薫蒸消毒、MRガス消毒、二酸化塩素消毒等)の選択	<ul style="list-style-type: none"> ●酸性水消毒→強酸性水を噴霧し、1分間放置後、ウエスでふきとる。(車いす・特殊寝台・特殊寝台付属品・手すり・スロープ・歩行者・歩行補助つえ・徘徊感知器・移動用リフト) ●パルスインバーター式消毒装置による消毒→パルホルン消毒剤(ホルマリン)とパルスカット浄化促進剤(アンモニア)による消毒。(床ずれ防止用具・マットレス・クッション類・体位変換器・疥癬が付着した恐れのある機器、その他感染症) ●機械によるオゾン薫蒸消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ●酸性水での消毒は、商品種目、商品の種類によって手間が異なる。 ●消毒機は商品の材質等によって消毒時間・温度を変えて行うが手間に変動はない。消毒機は規定温度まで上昇してから消毒を開始する為、気温に消毒時間が左右される。 ●商品ごとの消毒方法の選択については、マニュアルで規定されているので、選択作業の時間は掛からない。 	●酸性水消毒:10分~20分 ●パルスインバーター式消毒装置による消毒:1~4時間(消毒機稼働の余熱時間・冷却時間を含む) ●オゾン薫蒸消毒:12時間	
	消毒機械への福祉用具の入庫	<ul style="list-style-type: none"> ●マットレス・床ずれ防止用具・クッション類を専用台車に積載し消毒機械へ入庫する。 ●その他、感染症の利用者が使用した商品についてはビニールに梱包された状態のまま消毒機械の中へ搬入し、庫内でビニールを開封する。 ●特定の商品のみ洗浄工程終了後オゾン庫へ入庫する 	<ul style="list-style-type: none"> ●耐熱温度の低い商品は、設定温度によって同時に消毒を行えないことから区別する必要がある。 ●感染症の利用者が使用した商品については消毒機械の中へ搬入し、庫内でビニールを開封する。 	●5~15分	
	消毒機械の調整	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的に、消毒する商品、感染等の状況により、消毒モードを4コース設定してある。したがって、調整には時間は掛からない。 ●新商品の消毒や新たな病ウイルス等の場合には、メーカーと相談して調整する。 ●消毒対象物がマットレス→一般菌の場合→設定温度60℃・工程時間60分 消毒対象物がエアーマット・疥癬が付着した恐れのある、電動ベッド運動機器の場合→設定温度47℃・工程時間180分 重度汚染60℃240分 ●専用の作業工程表示板を設置してあり、温度、時間、工程、エラーが視覚的に確認できる。 ●作業担当者が機器の作動チェックを行い、定期的にメーカーが保守点検を行う。 ●週一回機能チェックを行い、不具合時は部品交換をし、機能を保つ 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染症の恐れがある場合、ケースに応じた消毒時間・温度を設定する。 ●担当者が毎回確認を行い、メーカーが定期的に調整を実施する。 	●1分 ●不具合による部品交換は30分	
消毒機械からの福祉用具の出庫	<ul style="list-style-type: none"> ●消毒工程に問題が無かったが、消毒機のモニターで確認、出庫する。 ●消毒機から消毒済み商品を専用テナーごと取出し。消毒剤使用記録簿、消毒性能記録簿作成保管。 ●事業所によっては消毒管理システム工程終了後にまとめてオゾン庫より搬出 	●物量により変動	●5分 ●まとめてオゾン庫より搬出する場合には30分		
乾燥工程	自然乾燥	<ul style="list-style-type: none"> ●水気をウエスで拭きとる。手の届かないところは、エアークンによって水気を飛ばす。 ●ウエスでふき取り後、乾燥スペースで専用の清潔テナーにのせて完全乾燥。 ●流水洗浄後乾燥場所へ商品を移し乾燥後に清拭洗浄を行なう 	●気温・湿度等の環境。 ●物量により変動	●ベッド1台約30分、流水作業を要した商品は24時間 ●事業所によっては2~3日	
	機械乾燥	<ul style="list-style-type: none"> ●カバー類やマットレス、クッションについては、消毒機内で熱乾燥を行う。ジェルクッション等、商品の材質によっては熱乾燥ができない物は自然乾燥を行う。 ●急ぎで乾燥する必要がある場合に、消毒機内で熱乾燥を行う。 ●特定の商品のみグループ会社へ委託する 	●素材により変更あり	●30~120分	

【福祉用具貸与サービスで実施している消毒・保管等業務の内容:作業の内容】

プロセス	作業工程	業務の作業内容を記入して下さい (作業の工程の要領書を記入して下さい) (実施している作業内容の要領書) 本作業工程について、通常、誰がどのように行かせるかを記入してください。その作業を行うために必要な資料、道具、設備などを、ここで記入してください。	作業の工程の要領書を記入して下さい (実施している作業内容の要領書) 本作業工程と一致した内容が多ければ、別になる作業工程も記入して下さい	業務の所要時間を記入して下さい	備考
乾燥後検査	部品の変形・破損等検査	<ul style="list-style-type: none"> ● 外観の目視による確認。組立による変形等の確認。 ● マットレス等は計測台にて縮みの確認を行い、検針機にて異物の混入確認、触診にてヘタリの確認を行う。 ● 検査員が工程管理票の確認を行い用具を検査後検査票を発行する。 	● 商品・パーツの大きさ及び重量により検査手間が変動する。	● 5~15分	事業所によっては他の工程で実施
	動作確認検査・メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● 車いす関連は、車軸を回転させて車軸の遊び、ブレーキの効き、タイヤのエアチェック。シートの汚れ確認。 ● ベッド等電動駆動部は、移動・異音検査、制動確認、安全装置の稼働確認。 ● エアーマットレス関係の空気漏れ確認の為、膨らます作業。 ● 最終工程確認者が再度動作確認後、消毒工程管理票を発行。 ● 特定の商品のみ消毒工程終了後にも動作確認を行ない洗浄不良の場合は再度洗浄を行なう 	● 動作確認部の多さや安全装置の多さにより変動。	<ul style="list-style-type: none"> ● ベッド1台10分、車椅子15分、その他5分~10分。 ● 組み立てを要する品については約30分程 	
	洗浄結果検査・再洗浄の処理	<ul style="list-style-type: none"> ● 目視確認。汚れが発覚した際は、洗浄工程に戻す。 ● 検査員が工程管理票の確認を行い、用具を検査後検査票を発行する。 	● 商品・部品の大きさや重量により手間が左右される。入り組んだ細部が多い商品は確認の手間がかかる。	● 10~45分	
	欠品検査	<ul style="list-style-type: none"> ● 商品を構成する部品の確認。組立ネジ等の種類・数の確認。取外し可能な部品の有無の確認。 ● 作業担当者が欠品確認を行い、最終工程確認者が再度、欠品確認を行う。(客先納品時には営業担当者がもう一度、欠品確認を行う。) 	● 商品を構成するパーツが多い商品、組立ネジの多い商品などは確認に手間を要する。	● 10~30分	
梱包行程	包材の管理・選択	<ul style="list-style-type: none"> ● 社名、消毒済みマーク、フリーダイヤル入りの包材を発注 ● 全てビニールによる梱包。適したサイズのビニールを選択する。 ● 梱包材は清潔庫倉庫にて保管管理を行う。素材の選択は本社業務部が行う。 ● ビニールロール2種類(幅120cm.60cm)、長さは自由 	● なし	● 1分	事業所によっては手作業梱包のみ
	機械梱包	<ul style="list-style-type: none"> ● ユニバーサルオートシーラーによる梱包 ● 用具の大きさにより梱包機によりビニールを圧着密閉する ● 通常の梱包作業は機械梱包で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きな商品・重量のある商品をビニールに入れる際に手間が生じる。 ● 新たな商品の梱包時等カット寸法の設定に手間が生じる。 ● 突起部があるとビニールが破れないよう注意が必要であり手間が生じる。 	● 5~10分	
	手作業梱包	<ul style="list-style-type: none"> ● 梱包機で梱包できないサイズ(特殊寝台のモーター部等)は手作業で梱包を行う。 ● ビニールロールを商品の大きさに合わせて裁断し、両側をハンドシーラーにて密閉する。 ● 足踏み式シーラーを使用し二人一組にて社名入り包材での密閉梱包を行ない梱包終了時にシルバーマークシール貼付 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型商品で規格ビニールでの梱包が不可能な際、手作業で専用サイズの袋を作成するため手間が生じる。 ● 大きな商品・重量のある商品をビニールに入れる際に手間が生じる。 ● 突起部があるとビニールが破れないよう注意が必要であり手間が生じる。 	● 5~15分	
納庫管理	福祉用具の倉庫への移動	<ul style="list-style-type: none"> ● ハンディーで個品管理されたバーコードNoを読み取り、台車ごとトラックに積載し、営業拠点倉庫に移動する。 ● 同じ建物内にある営業所倉庫へ移動する場合は、専用テナーを使用し運搬する。 	● 商品の物量、重さ、大きさによる	● 他の営業所へ移動の場合、180分(1日当たりの平均往復時間) ● 併設営業所倉庫に移動の場合、5分	
	福祉用具の倉庫への納庫	<ul style="list-style-type: none"> ● 積載した台車ごと営業所倉庫に納庫する。 ● 製品庫への納庫する前に、ここでも個品バーコードをスキャンしてから納庫。 	● 商品の物量、重さ、大きさによる	1時間~1時間30分	
その他	施設について	<ul style="list-style-type: none"> ● 引取商品置き場、洗浄・消毒・メンテナンス、梱包工程は一方通行で行われ、それぞれ壁で区画が仕切られている。 ● 消毒に電解水を使う事により手間が変動する、環境にやさしく、商品に消毒剤の残留物が無い為、ご利用者様に安心して使用して頂ける。また清拭・消毒を行う作業担当者にも安全である。 ● 採用している消毒機も、屋外への廃棄ダクトはなく、消毒機内で中和処理する。また残留薬剤濃度も0.03PPMと、ほとんど無く、利用される方にも安心・安全である。 			
	管理システムについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 商品は部品ごとにバーコード管理がされており、それぞれの作業は個人パスワードが必要であり、作業担当者の確認、工程の後追い検証が可能である。また部品ごとに管理されている為、納品・入荷・出荷時に積み忘れ等の間違えが起こらない。 			
	感染症対策と健康、衛生管理について	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染症への感染・拡大を防ぐ為に社外講習会や社内勉強会等で感染症に対する知識と意識を高めている。従業員は毎朝健康チェックを行い、うがい、手洗い、手指消毒を励行し、決められた服装、靴で作業を行い、帽子・手袋・マスクを着用している。作業場は毎日作業終了後に酸性性水にてモップ掛けを行い衛生管理に努めている。 			

